

会議議事摘録

会議名	平成 26 年度第 1 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 26 年 6 月 21 日（土曜日）10：00～12：30（2.5h）
場所	本校 1 階 101 教室
出席者 (敬称略)	①委員：佐藤文雄(高等学校関係者)、島本厚子(保護者)、野間 弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)(計 5 名) ②学校：橋本正樹(校長)、藤野 裕(参与)、宮下明久(事務局長)、小田真理子(速記コンピュータ科学科長)、石川幹夫(医療秘書科学科長)、菊池聖一(医療マネジメント科・診療情報管理専攻科学科長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、飯岡理絵(介護福祉科学科長)、檀 貴与(鍼灸医療科学科長)(計 9 名) ③事務局：出野孝行・高橋 稔(校長室)(計 2 名) (参加者合計 16 名)
欠席者	なし
配付資料	①事前送付： □資料 1：平成 25 年度第 3 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 2：平成 25 年度学校関係者評価委員会からの課題への取り組み報告、□資料 3：平成 25 年度自己評価報告書(点検大項目)、□資料 4：平成 26 年度重点目標 ②本日配付： □資料 5：主な経過報告、□資料 6：平成 26 年度校務分掌、□資料 7：平成 26 年度学事日程、□資料 8：平成 26 年度オープンキャンパス日程、□資料 9：平成 27 年度看護科新設プレスリリース、□資料 10：職業実践専門課程の運営上、更に改善・充実を図る上での留意事項、□資料 11：職業実践専門課程認定校資料、□資料 12：平成 25 年度後期授業アンケートの集計結果の概要、□資料 13：平成 26 年度授業アンケート改訂資料、□資料 14：平成 25 年度授業公開の報告、□資料 15：平成 25 年度退学状況報告、□資料 16：平成 25 年度就職内定状況報告、□資料 17：平成 26 年度クラス担任一覧 □平成 27 年度入学案内書、□平成 27 年度学生募集要項、□平成 26 年度学生生活ガイド、□平成 26 年度講義要項 □川口学園創立 80 周年記念誌（式典欠席委員）
議題等	1. 今年度の委員及び本校出席者紹介（説明者：事務局 高橋） 事務局より、本日出席の委員と本校出席者の紹介が行われた。併せて、平成 26 年 4 月の異動により橋本校長、藤野参与、また校長室（事務局）に出野が加わったことが報告された。 また、文部科学省ガイドラインと職業実践専門課程の関連からも、今年度中にくすり・調剤事務科、介護福祉科、鍼灸医療科の業界関係委員の追加を検討する旨の説明が行われた。 2. 校長挨拶 橋本校長より出席委員の方々への謝辞、昨年度に引き続き今年度もご意見・ご協力を賜りたいとの挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認

保坂委員長より、前回議事録について訂正等がなければ確認したい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。

また、委員長の指示により今年度の開催趣旨とスケジュールについても事務局から説明があり、併せて確認、了承された。

4. 経過報告（説明者：事務局 高橋）

平成 25 年度第 3 回委員会が開催されて以降の主な経過について、主な経過報告（資料 5）に基づき説明が行われ、確認、了承された。

なお、職業実践専門課程認定の告知に関する質問があり、本校の告知方法について説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 平成 25 年度学校関係者評価委員会から課題への取り組み報告について（説明者：事務局 高橋）

平成 25 年度活動の自己点検・自己評価に併せて点検、確認を行った内容について、資料 2 に基づいて報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

なお、委員より以下について質問があり、説明が行われた。

①退学防止に関する関係者での情報共有

②卒業時点での検定取得率

6. 平成 25 年度自己評価報告書（点検大項目）について

保坂委員長より、資料 3 について、重点目標、各評価項目の順に項目毎に確認すると説明があり、評価項目毎に質疑が行われた。詳細は別紙のとおり。

(1) 平成 25 年度重点目標

藤野参与より、重点目標として掲げた、①退学防止、②教員研修、③検定指導についてそれぞれの達成状況と今後の課題について説明の後、質疑が行われた。

(2) 点検大項目（説明者：事務局 高橋）

事務局より、点検大項目の順に点検中項目と小項目の記述について、前年度資料に追加、変更した部分の説明を受けながら、評価項目毎に質疑が行われた。委員より以下について質問があり、説明が行われた。

①退学防止と授業の魅力との関係

②授業公開の公開対象拡大

③授業公開者

④個々の教員への PDCA サイクルの浸透

⑤ 1 年次検定不合格者への 2 年次モチベーションの工夫

⑥授業アンケート集計結果の学生へのフィードバック

⑦学生の学会発表と学内でのステップの検討

⑧鍼灸医療科の企業推薦制度

⑨バリアフリー化した地下トイレの関係者や利用者への告知

(3) 学校関係者評価報告の整理とまとめ

	最後に、以上をもって平成 25 年度自己評価報告書の確認を終了する、またこれに対する学校関係者評価報告の整理とまとめについては保坂委員長に一任する、報告案は次回委員会までに事前に各委員に送付して予め意見をいただくことが確認、了承された。 なお、質問、確認忘れ等があった場合は後日事務局に連絡すること、本日の議事録にはそれも記述し、報告案に加えることについても確認、了承された。 7. 平成 26 年度重点目標について 橋本校長より資料 4 により、今年度の 3 つの重点目標（①TPC の育成と強化、②退学防止、③教員研修）について説明が行われ、確認、了承された。 なお、委員より以下について質問・意見があり、説明が行われた。詳細は別紙のとおり。 ①指導困難ケースの対象者 ②退学防止のため行った個人面談の記録の保管 ③TPC の学外活動への利用、推進 ④TPC の入学案内書での紹介・解説（2-40 PROJECT は紹介・解説されている） 8. 次回日程、その他 事務局より、第 2 回委員会は 10 月に開催を予定しており、8 月に日程調整を行った上で案内をすること、次回テーマは以下の通りとの事務連絡が行われ、閉会した。 ・今年度の学校関係者評価報告のまとめ、 ・重点目標の進捗状況を含めた中間点検・中間報告
--	---

以 上

別紙

平成 26 年度第 1 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

4. 経過報告についての質疑は以下の通り。

○事務局より、配布資料に基づき平成 25 年度第 3 回委員会以降の以下の経過について報告が行われた。

①川口学園創立 80 周年記念式典実施

②平成 26 年度の組織運営関連

平成 26 年度校務分掌（資料 6）、平成 26 年度学事日程（資料 7）、平成 26 年度オープンキャンパス日程（資料 8）

③職業実践専門課程関連

職業実践専門課程の運営上、更に改善・充実を図る上での留意事項（資料 10）、医療事務分野他の職業実践専門課程認定校（資料 11）

④自己点検・自己評価関連

平成 25 年度活動の自己点検・自己評価実施（資料 2、3）

⑤授業アンケート関連

平成 25 年度後期授業アンケートの集計結果の概要（資料 12）、平成 26 年度改訂授業アンケート（資料 13）

⑥授業公開関連

平成 25 年度授業公開の報告（資料 14）

⑦その他

平成 25 年度退学状況（資料 15）、平成 25 年度就職内定状況（資料 16）、平成 26 年度クラス担任一覧（資料 17）

○藤野参与より、平成 27 年度看護科新設プレスリリース（資料 9）に基づき、平成 27 年度開設予定で現在申請手続き中の新学科「看護科」に関して、設置経緯と今後の予定等について報告が行われた。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

学校関係者評価委員会からの質問・意見	質問・意見への回答
□医療秘書科と医療マネジメント科が職業実践専門課程の認定を受けたことの告知はどのように行っているのか。	□入学案内書制作の時点では認定を受けていなかったため、入学案内書 3 ページ(学科・コース紹介ページ)で医療秘書科と医療マネジメント科が文部科学大臣認定職業実践専門課程を申請中とだけ表記している。ただし、今後は見学会 DM やホームページ等で認定されたことを順次、告知していく予定である。

5. 平成 25 年度学校関係者評価委員会からの課題への取り組み報告についての質疑は以下のとおり。

○事務局より、6 月時点で取り組みが完了しているのは、医療秘書科と医療マネジメント科で使用する実習の事前・事後の指導資料である「病院実習の手引」であり、その他の課題は、今年度の課題として現在取り組んでいる旨の報告が行われた。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

学校関係者評価委員会からの質問・意見	質問・意見への回答
□ 2 年生以上の退学者が大幅に減少しているとのことであるが、学校関係者の中で退学防止のためのケアが必要な学生の情報は共有しているのか。	□ クラス担任、カウンセラー、保健室の教員で問題を抱えた個々の学生に関する情報を共有し、個別相談をはじめ、いろいろな角度から学生をケアしている。退学は経済的理由を除き、ほぼ防ぐことができています。孤立した学生は自分からはカウンセリングを受けようとしないうえ、クラス担任だけでなく同じクラスの学生も気にかけて学校生活に馴染めるよう雰囲気作りをしている。 また、クラス担任は授業以外でも教室に行き、生徒の様子を窺っている。授業科目担当教員からも学生の様子について、クラス担任に報告をしてもらい情報を共有するように努めている。 □ 2 年生で学生生活に悩み留年したが、担任、カウンセラー等による個別相談が功を奏し、就職未決定ではあったが、卒業した例もある
□ 検定取得の目標として 1 年次で医療秘書技能検定 3 級 90%、2 年次で同検定 2 級 70%とあるが、卒業時点での合格率はどうなっているのか。	□ 今年 3 月卒業生の医療秘書技能検定の合格率は医療秘書科と医療マネジメントで 3 級は 100%近く、2 級は 77%である。資格を前面に募集をしている他校と比較しても劣らない。また、2 年次で 3 級が取得できていない学生に関しては検定対策の特別講座を開講してバックアップ等も行っている。 □ 今後は医療秘書技能検定以外の検定試験に関しても全国平均レベル以上の合格率を目標に指導を行っていく。

○保坂委員長より、課題については委員からの提言に基づき、今後、取り組んでいただきたいとの発言があった。

6. 平成 25 年度自己評価報告書（点検大項目）についての質疑は以下のとおり。

○藤野参与より、平成 25 年度重点目標に関して、本校の基本方針でもある考える力(Think)、積極性(Positive)、対話力(Communication)の能力を備えた人材育成を目標とし、それを達成するための計画・方法として退学防止、教員研修、検定指導を中心に推進していることと達成状況ならびに今後の課題について説明が行われた。

○事務局より、平成 25 年度自己評価報告書（点検大項目）（資料 3）の点検中項目と小項目の「総括と課題」「今後の改善方策」「特記事項」の前年度資料に追加、変更した部分の記述について説明が行われた。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 平成 25 年度重点目標

学校関係者評価委員会からの質問・意見	質問・意見への回答
--------------------	-----------

①重点目標の一つに退学防止がある。退学理由には学業不振 不本意入学、授業についていけない、興味が持てない等、様々な理由があるが、授業をより魅力的にする工夫も必要ではないか。	□医療事務系学科では検定試験対策として時間を変更して行うプログラムを用意し、資格取得をサポートすることで学生のモチベーションを高め、退学防止の一環としている。授業に興味を持たせるために、一方的な講義形式ではなく、学生に問いかける授業を展開していくことを今年度からの目標としている。 また、オープンキャンパスに複数回参加で受験料の2万円を免除しているが、複数回参加することで学科と学びの内容をより深く理解してもらうこともでき、不本意入学の防止対策としている。
②小中高では授業公開週間を設けて、入学希望者やそのご両親、在校生も参加できる公開授業を行っている。一般の高校生に対して授業公開は行っているのか。	□オープンキャンパスでの授業体験、平日の来校者の授業見学、高校内ガイダンスでの本校教員による模擬授業等は実施しているが、入学希望者や学校見学希望者以外の高校生への授業公開は行っていない。
③授業公開は特定の教員に偏っているということはないか。	□以前は公募制で限られた授業公開となっていたが、現在は教員全員が所属する学科の授業をお互いに参観している。参観者はレポートを提出するが、「参考になった」「所属学科以外の授業も見たい」等の前向きな意見が多く、教員同士が授業展開の参考としている。(事務局 高橋) □指摘のとおり、自分の授業を見られたくない、参観されることに慣れていないという傾向は学内にある。これまでは学科内での参観であったが、今後は他学科の授業も参観できる授業公開を展開していく予定である。
④教員にPDCAサイクルを浸透させることがインストラクションスキルの向上につながるのではないか。	□他校の教員も参加する宿泊研修等に本校の新任教員を参加させている。違う専門分野の教員から、学生への接し方、授業展開の仕方等の情報を得て、インストラクションスキルの向上につなげている。
⑤1年次に検定試験に不合格となった学生は2年次の時点で自信喪失している。そうした学生に対しては「資格取得は就職に有利になる」「この検定試験に合格しておくで医療機関で採用される可能性が高くなる」等のアドバイスを与えることでモチベーションを高めることにつながると思う。	□提案として承った。

(2) 教育活動

学校関係者評価委員会からの質問・意見	質問・意見への回答
⑥授業アンケートの集計結果は学生に対してどのような形でフィードバックをしているのか。	□ホームページ上でも閲覧は可能だが、図書室に配架してあることを掲示で告知して自由に閲覧できるようにしている。教職員には回覧も行い、兼任教員に対しては個別に集計データを送付している。
⑦学生に学外での研究発表の機会を与えているが、学内で発表等の経験を積んでから学外での発表を行うというステップを踏んだほうが良いのではないか。また、学内でそうした機会を設けた場合は、教員の指導どおりに発表するのではなく、自主性を持って発表を行えるようにしたほうが良い。	□医療秘書科では授業の中で医療機関での実習体験・感想等をパワーポイントで発表している。 □介護福祉科では「卒業研究発表会」として介護実習のケーススタディを一人一人が発表している。 □くすり・調剤事務科では、授業の中でグループまたは個人で小論文を作成し、クラス内で発表した後に日本チェーンドラッグストア協会の懸賞に応募している。そのうち一人の学生の論文が佳作表彰された。
⑧鍼灸医療科の奨学生制度にある企業推薦制度とはどのような内容のものか。	□働きながら学ぶ方を支援する奨学金制度であるが、鍼灸医療科の募集促進の意味合いもある。本校が指定する企業・治療院に在職しているか、または来年度に入社予定であり、在職先・入社予定先からの推薦を受けられる方が対象となる。学費は、入学金・施設費・実習費（合計 139 万円）が免除される。

(3) 教育環境

学校関係者評価委員会からの質問・意見	質問・意見への回答
⑨地下トイレをバリアフリー化したとのことだが、関係者や利用者に告知を行っているのか。	□現在は特に告知を行っていない。当面は掲示物で対応していくが、今後は「学生生活ガイド」等の印刷物でも告知していく予定である。

(4) 委員会終了後にいただいた意見、提案

○7月2日、藤井委員より平成25年度自己評価報告書（点検大項目）について以下の質問、確認、意見をいただいた。

基準3. 教育活動

・3. 成績評価・単位認定等：

学外イベント、競技会、学会等での発表の機会を増やす仕掛けとしてどのようなことを考えているのか。

これに対しては昨年度より速記コンピュータ科で行っている、高速入力競技会への参加支援について説明した。

・4. 資格試験：

学科から検定対策を委託されたが、教室の手配や教材の準備、印刷などに関して学務課の対応がとても配慮されたものであった。

基準 10. 社会貢献

・ 1. 社会貢献・地域貢献：

東京消防庁の救命救急講習を受講しているのか、していないなら災害時への対応や応急対応にも役立つものであり、認定証ももらえるので積極的にやってはどうか。

これに対しては介護福祉科と医療秘書科が実施していることを説明した。

7. 平成 26 年度重点目標についての質疑は以下のとおり

○橋本校長より、今年度は 3 項目の重点目標（①TPC の育成と強化、②退学防止、③教員研修）を掲げた。学生が就職活動の際に自らを表現できる力、コミュニケーション能力の向上等を目的に T P C（Think:考える力、Positive:積極性、Communication:対話力）の育成と強化を第一に掲げた。

これに伴い、授業についても一方的な講義形式ではなく学生の能力を引き出す授業展開を行っていく。昨年度の重点目標でもあった退学防止、教員研修については継承することとした。

第 2 の目標である退学防止については、昨年度の退学率が 3.4%であったことを踏まえて今年度の年間退学率の目標数値を 3.5%以下とした。（昨年度の目標数値は 4.0%）

第 3 の目標である教員研修については、授業公開は、他学科の教員も参加できるようにするとともに学内外の研修会等も活用し、インストラクションスキルの向上に努めていくとの説明が行われた。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

学校関係者評価委員会からの質問・意見	質問・意見への回答
①指導困難ケースの対象者はどのような学生なのか。	□授業についていけない、授業に興味を持つことができない、友人関係に問題を抱えている学生等である。昨年度は、このような学生の事例を取り上げ、どのようなケアが必要かを考える教員研修をカウンセラーも交えて行った。今後は新任教員を対象とした学内研修等も必要であると考えている。
②退学防止のため行った個人面談の記録は保管されているのか。	□学科内においてパソコンで管理・保管している。 また、面談記録の書式も決まっている。
③TPC は学内の授業や学校行事だけでなく、学外活動も利用して推進していく必要がある。例えば、学校側がよりボランティア活動を推進し、学生が年齢の違う方々との接点を持つことで社会性がより身につくのではないかな。	□提案として承った。
④「2-40 PROJECT」に関しては入学案内書の中でかなり詳細に紹介・解説がされている。「TPC」に関しても同様に入学案内書で紹介・解説をしてはどうか。 また、重点目標に「TPC」が掲げられたことは大変、良いことである。業界の方からは採用試験の面接時にマニュアル本どおりの言葉ではなく、自分の言葉・表現で臨んでほしいとの声が	□提案として承った。

ある。自己表現能力、コミュニケーション能力を向上させる授業展開をしてほしい。	
--	--

○保坂委員長より、本日の確認内容に従い推進していただきたいとのまとめが行われ、提案された各テーマが確認、了承された。

以上

会議議事摘録

会議名	平成 26 年度第 2 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 26 年 11 月 30 日（日曜日）14：00～16：30（2.5h）
場所	本校 5 階 504 教室
出席者 （敬称略）	①委員：佐藤文雄(高等学校関係者)、島本厚子(保護者)、野間 弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者)（計 6 名） ②学校：橋本正樹(校長)、藤野 裕(参与)、宮下明久(事務局長)、石川幹夫(医療秘書科学科長)、菊池聖一(医療マネジメント科・診療情報管理専攻科学科長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、飯岡理絵(介護福祉科学科長)、檀 貴与(鍼灸医療科学科長)（計 8 名） ③事務局：出野孝行・高橋 稔(校長室)（計 2 名） ④見学者：沼田雅美(株式会社 三菱総合研究所) （参加者合計 17 名）
欠席者	なし。
配付資料	①事前送付： □資料 1：平成 26 年度第 1 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 2：平成 26 年度学校関係者評価委員会報告案、□資料 3：平成 26 年度重点目標の中間点検報告、□資料 4：学校関係者評価委員会からの平成 25 年度の課題への取組 ②本日配付： □資料 5：平成 26 年度学校関係者評価委員会名簿、□資料 6：主な経過報告、□資料 7：職業実践専門課程の認定要件等報告書、□資料 8：専門学校第三者評価実施要領、□資料 9：私立専門学校等評価研究機構による第三者評価、□資料 10：平成 26 年度退学の状況について、□資料 11：平成 26 年度就職内定状況報告、□資料 12：平成 26 年度前期授業アンケートの集計結果の概要、□資料 13：平成 26 年度授業公開の進め方 ③回覧資料： □回覧資料 1：職業実践専門課程の認定要件等報告書と添付資料、□回覧資料 2：平成 25 年度活動の自己評価報告書と参照資料一覧
議題等	1. 校長挨拶 橋本校長より、専門学校教育を取り巻く状況の大きな流れの変化の中で、今年度は、看護科開設に向けた設置準備、第三者評価の更新等、本校にとって新たなスタートの年となった。本校の教育が周囲からどう見られているか、学校の見える化、情報公開の仕方等について委員の方々には本校のサポーターとしてご意見・ご協力を賜りたいとの挨拶が行われた。 2. 事務局より今年度の新任委員及び見学者の紹介（説明者：事務局 高橋） 事務局より、福祉関連業界関係者委員として今回から出席いただく株式会社トータルケア代表取締役の宮武正秀氏が紹介された。 併せて、文部科学省委託事業の「専修学校における学校評価実践の手引き」作成のた

め、株式会社三菱総合研究所の沼田雅美氏が見学することが報告された。

3. 前回委員会議事録の確認

保坂委員長より、前回議事録について訂正等がなければ確認したい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。

4. 経過報告（説明者：事務局 高橋）

平成 26 年度第 1 回委員会以降の主な経過について、資料 6～13 及び回覧資料 1～2 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

なお、委員より以下について質問・意見があり、説明が行われた。

- ①今年度の職業実践専門課程の申請
- ②授業アンケートの回答に関連した教員への対応
- ③授業アンケートの回答についての分析
- ④授業の改善と教員研修

5. 平成 26 年度学校関係者評価委員会報告について

保坂委員長より、前回委員会において質疑をいただいた、平成 25 年度活動の自己評価報告に対する本委員会の意見を、平成 26 年度学校関係者評価委員会報告案（資料 2）としてまとめたので、重点目標、各評価項目の順に質疑をお願いするとの説明があり、事務局の補足説明を受けながら評価項目毎に検討を行った。

以下の質問・意見についてそれぞれ説明が行われた後、質疑を終了し、報告文書の最終的な整理とまとめについては保坂委員長に一任することで平成 26 年度学校関係者評価委員会報告が確認、了承された。詳細は、別紙のとおり。

- ①退学者の分析資料
- ②退学防止策
- ③退学防止につながったケース
- ④学校運営方針・重点目標の浸透度
- ⑤授業アンケートの回答に関連した学生への対応
- ⑥授業アンケートの回答に関連した教員からのフィードバック
- ⑦授業アンケートの記名
- ⑧教員間のコミュニケーション
- ⑨授業公開
- ⑩保護者への情報発信
- ⑪感染症予防
- ⑫ボランティア実績の状況把握

6. 平成 25 年度学校関係者評価委員会からの課題への取り組み報告について

前回委員会での報告以降の進捗状況について、資料 4 の概略説明が行われ、確認、了承された。

なお、委員より以下について質問があり、説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①教職員研修会の内容
- ②教員研修の受講状況
- ③在宅実習関連
- ④web メールによる学生支援の内容

7. 平成 26 年度重点目標の中間点検報告について

橋本校長より、資料 3 に基づき、今年度の 3 つの重点目標（①TPC の育成と強化、②退学防止、③教員研修）の中間点検結果について説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

なお、委員より以下について質問と意見があり、説明が行われた。

- ①医療事務系学科のカリキュラムのあり方
- ②学生が身につけておくべきこと
- ③授業公開の参観状況

8. 次回日程、その他

事務局:高橋より、第 3 回委員会を来年 2 月～3 月に開催する予定であること、年末に日程調整の文書をお送りさせていただくこと、次回のテーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ①平成 25 年度課題への取り組み報告
- ②平成 26 年度重点目標の進捗報告
- ③委員会からいただいた平成 26 年度課題への取り組みの進め方

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次年度の報告書からは委員の方々による総評も記述することで進めたいとのまとめが行われ、閉会した。

以 上

別紙

平成 26 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

4. 経過報告についての質疑は以下の通り。

○事務局:高橋より、資料 6～13 及び回覧資料 1～2 に基づき平成 26 年度第 1 回委員会以降の以下の経過について報告が行われた。

①職業実践専門課程関連

- (ア) 医療事務系の教育課程編成委員会（資料 6）
- (イ) 職業実践専門課程の本年度の申請（資料 6）
- (ウ) 職業実践専門課程の認定要件等報告書及び添付書類の提出（資料 6、7）、
- (エ) 文部科学省による職業実践専門課程認定の取り消し（資料 7）

②第三者評価関連

- (ア) 私立専門学校等評価研究機構への更新申請に向けての作業経過（資料 8、9）
- (イ) 私立専門学校等評価研究機構による書面調査・訪問調査（資料 9）

③学生の状況関連

- (ア) 退学の状況（資料 10）
- (イ) 就職内定の状況（資料 11）

④アンケート関連

- (ア) 平成 26 年度「前期授業アンケート」の集計結果の概要（資料 12）
- (イ) 平成 26 年度「後期授業アンケート」「学校生活に関する調査」「挨拶に関するアンケート」の実施予定（資料 6）

⑤授業公開関連

平成 26 年度「授業公開」の進め方（資料 13）

⑥平成 26 年度活動の自己点検・自己評価関連

活動の予定（資料 6）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□職業実践専門課程に今年度は申請しないと決定した理由はどういうことなのか。	□申請は前年度の実績が必要となる。要件となる学校関係者評価委員会、分野ごとの教育課程編成委員会が開催できていない。今回から福祉分野関係者として宮武委員に出席していただき、今後は本校の他学科に関連する分野の方々にも委員として出席していただく方向であるが、現状では準備段階である。 また、募集において他校と競合している他学科の申請も視野に入れている。将来的には他校と競合していない学科についても社会の信頼を得るためには申請準備を進めていきたいと考えている。
□授業アンケートにおいて授業の評価が全般的	□個々の授業のアンケート結果に関しては担当

に高いのは、先生方の努力によるものと思うが、科目や担当教員によって評価には微妙に差があると思う。低い評価となった科目の担当教員に対しては、どのような対応を行っているのか。 □グラフで見ると全体及び各学年の単純平均値については、全体的に学年の差はあまりないが、質問3「私は授業中に私語、携帯メールはしていない」に関しては他学年に比べ3年生の評価が低い。これに関して分析はしているのか。	教員に結果を公表し、学科長には学科全体の報告も行っている。学科の中でそうした課題を感じた場合は、対応していくスタンスではある。 ただし、現状では、ほとんどの教員が高い評価を得ているため、特別な対応は行っていない。 □それに関する分析は行っていない。3年生は国家試験等の受験があり、1年生と異なる環境にあるので、そうした背景が回答に表れていると思われる。 □授業アンケートでは毎回、他の教員と比べ評価の低い教員はいる。この授業アンケートは人事考課の参考にはしないことを前提としてスタートした。担当教員一人一人に結果をフィードバックし、ご自身で改善に取り組んでいただく依頼をしている。学科によっては、個別に担当教員に対応するケースもあるが、学校全体としては一人一人の教員にアプローチはしていない。 ただし、今回からはアンケートの実施方法を変更し、担当教員がアンケートの配付・回収を行うこととした。実施方法を変更したことで自由記述を含めて、回答をすぐに担当教員が見ることができ、その期の授業の進め方に反映できるようになった。
□授業評価を改善に繋げることは非常に大事なことであるので、アンケートを実施するだけでなく、授業の改善に繋げていただきたいと思います。また、学生からの評価が高いことに教員が満足してしまわずに研修意欲を持ち続けることが大事である。	□意見として承った。

5. 平成26年度学校関係者評価委員会報告についての質疑は以下のとおり。

○保坂委員長より、今回の委員会において最終審議となる旨と、資料2の重点目標と評価項目毎に確認を行っていきたいとの発言により質疑が行われた。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

I-1. 重点目標(1)退学防止について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□学科別の退学者の特徴・傾向などを分析したとあるが、その結果をまとめた資料はあるのか。	□学科長会議での各学科長からの報告に止まっている。

□退学理由は様々あるが、重点目標の退学防止に掲げてある対応策で十分なのか。他に対応策を立てる必要があるのかについて学校の考え方を聞きたい。	□退学理由は様々あるが、その中でも防げたであろうと思われる情報を共有し、教員研修も行っている。今後は学科長会議においてより深く退学者に関する事例の共有を行い、退学防止に役立てていく方向である。
□退学防止については入学後の対策だけでなく、オープンキャンパス等で入学を希望する高校生をはじめとする人達に目指す業界について深く理解させるといった事前対策も大事ではないか。	□本校ではオープンキャンパスに複数回参加した人は、受験料が免除される。このことは学費免除の特典だけでなく、複数回参加することで入学希望される人達の考える進路とのミスマッチを防ぐことにもつながっている。以前は1度も参加せずに入学した人が退学に結びつくというケースが目立った。現在でも親の勧めで入学した学生が学業不振でないにもかかわらず、本来の進路希望ではなかったために退学するといったケースを含めて、数名の不本意入学者がいる。委員の皆様からは有効な退学防止策に関してご意見をいただきたい。
□実際に退学を防げたケースとして、どのようなものがあるのか。	□アルバイトに生活の比重を置き過ぎ学業が疎かになった学生に対して、担任と保護者が連携し、時間をかけて説得できたケースがある。本人に自分自身の将来のことを考える時間を与えて気持ちの切り替えが行えたことで学業に対するモチベーションを取り戻せた学生がいる。 □本来の進路希望ではなく入学した学生のケースで、退学を申し出る前に学科及び担任が保健室に相談させたことと学生相談コーナーを活用させたことにより退学を防止できた例がある。本校で学んだことを将来に活かしてほしいと説得することで退学を防止できた例も多い。退学の兆候が見られた時に対応することの重要性を感じている。

Ⅱ－２．学校運営(1)運営方針

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□学校の運営方針、重点目標を常勤の教職員、兼任講師に周知しているとのことだが、どの程度、浸透しているかがポイントになると思う。特に医療秘書科は講師の人数も多いと思うが、講師の方々がどの程度、真剣に受け止	□学科運営計画の中でも TPC の強化を計画として掲げ、学科内ごとの科会や年度当初の全教師会で繰り返し周知している。それを具体的にシラバスに活かしていただくことが次の目標である。価値観というものは人それぞれである

めて実践しようとしているのか。この点に関しての認識を聞きたい。	が、その価値観を擦り合わせるためにも対話が重要であると考えている。教員間のコミュニケーションや授業においても対話を深めていくことが必要である。 また、本校の教育研究誌に「対話力を鍛える」というタイトルで私自身も投稿している。一歩ずつでも諦めずに推進していくことが大事であると考えている。
--	---

Ⅱ－３．教育活動(3)授業評価

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□授業アンケートにおいて「全くそう思わない」という回答をした数パーセントの学生への対応はどのようにしているのか。 また、アンケートは記名式であるのか。記名式ならば退学防止に関して早めの対策を立てることができるのではないか。	□授業アンケートは無記名式である。担当教員が配付・回収を行うので、授業の後に記述内容を直接見て判断していただく。「全くそう思わない」という回答が多ければ担当教員はその後の授業で対応していくようにしている。
□記名式だと学生が回答しにくいということなのか。	□人数の少ないクラスの場合、回答者が特定される。ただし、記入内容に責任を持たせるために記名式にしてはどうかという意見も過去にはあった。
□担当教員がアンケートの回答を見てどのように受け止めたのか、また、結果によっては感想や改善策をフィードバックしてもらうという考え方はあるのか。	□自己点検・自己評価委員会において、改善策をフィードバックしていただくほうが良いのではないかという意見はあったが、結論までには至っていない。ただし、本校の教員は熱心に授業を行っており、アンケートの回答内容を真摯に受け止め、その後の授業に活かしていただいている。
□担当教員に改善策をフィードバックしていただく方向で進めてはどうか。	□授業アンケートは3年置きに改訂を行っているので、今後の課題として議論していきたい。
□授業アンケートとは別に教員が授業改善の参考資料とするために学生にアンケートを行うことはあるのか。	□私も以前、行ったが、プラスの意見が多く、マイナス意見がほとんど出てこないという結果であった。
□私の会社でも病院等でアンケートを行っているが、無記名式である。記名式だと本音が出ないという傾向がある。本音をキャッチするには無記名式の方が良いと思う。個々の学生の本音は各教員がコミュニケーションを図ることでキャッチできるのではないか。 また、実施方法を変更し、教員が回答内容	□回答の評点の集計は行っているが、約1ヶ月後である。

をすぐに見ることができるようになったが、学生の自由記述は今まで自分が気付かなかった点を認識できるので非常に重要である。さらに回答の評点も個々に集計したほうが教員にとって、ありがたいことだと思われる。	
☐兼任講師というのは非常勤講師のことを言うのか。また、各学科によっても違いはあると思うが、常勤と非常勤の割合はどのようなになっているのか。 ☐常勤講師と非常勤講師の間でのコミュニケーションを密に図ることが大事であると思われる。	☐兼任講師は非常勤講師のことである。医療事務系の学科では検定試験対策を担当する教員は、できるだけ常勤講師を配置している。 ☐学科によって異なるが、全体として常勤と兼任の割合は3対7ぐらいである。 ☐今年度の全体の人数は常勤講師 25 名、兼任講師 75 名である。 ☐毎年、学科ごとに科会を行いコミュニケーションを図っている。前期と後期に行っている学科もある。日常的にも兼任講師が担任に退学の兆候が見られる学生の状況を伝えるなどしている。こうした教員間の対話を持続し積極的に行うことが重要であると考えている。
☐校長と各教員がコミュニケーションを密に図ることがモチベーションのアップにつながると思われる。	☐意見として承った。

Ⅱ－３．教育活動(7) 研修

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
☐授業公開は他の専門学校でも行っているのか。	☐文部科学省により示された「専修学校における学校評価ガイドライン」にも明記されているので、取り組んでいる専門学校はあると思われる。

Ⅱ－５．学生支援(7)保護者との連携

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
☐私自身のことで言えば、高校時代とは異なり、娘が専門学校に入学してからは本人に学校生活のことは任せるという意識が強かった。 ただし、メール等で情報発信をしていたらと学校と保護者の関わりが持ちやすくなるのではないと思う。 ☐ホームページで保護者の方へ情報発信を行っているのか。	☐現在は保護者の方に向けて特別に情報発信はしていない。ホームページは基本的に入学志願者向けの内容構成になっている。ただし、検定試験受験に向けての在学生の取り組み、学園祭、体育祭等の情報は発信しているので、学校生活の一部は垣間見ることができる。保護者の方に向けた内容というものを工夫していくことで今後、情報発信源として見ていただけるようにできる可能性はある。

☐ 保護者の方に学生の出欠状況や成績を学校から通知することはあるのか。	☐ 学校としては特に通知は行っていない。 ☐ 学科によっては通知をしている。 ☐ 鍼灸医療科では、教育指導の必要上から保護者の方に向けて出欠状況や成績を通知している。 また、新入生オリエンテーション時に保護者の方も参加していただくように通知し、国家資格取得を目指すにあたっての家庭での協力等を依頼している。 さらに卒業後には企業説明会を実施し保護者の方も参加していただくように通知している。
☐ 今は多くの大学で保護者会を開いているし、出欠状況と成績を保護者の自宅に通知もしているので、検討する必要があると思われる。 ☐ 私の娘の大学からも出欠状況と成績、夏休みの過ごし方等の通知がくる。 ☐ 専門学校もそうした部分を参考にした方が良くと思われる。	☐ 鍼灸医療科では欠席が目立つ学生の保護者に連絡し状況をお知らせしたうえで、学生の授業への出席を促し改善を図るようにしている。以前勤務していた大学では、学園祭で保護者の方が個別に担任と懇談できる機会を設けていたりもした。こうしたことが保護者の学校に対する満足度に繋がるのではないかとと思われる。

II－6．教育環境(4)教育活動中の安全対策

☐ 感染症予防は学内だけでなく、実習先等の学外においても必要ではないか。	☐ 病院、福祉施設等の実習先からの指示、依頼に基づき実施している。
---	--

II－10．社会貢献・地域貢献(3)ボランティア活動の奨励、支援

☐ ペットボトルキャップの回収活動は(2)「社会問題への取り組み」に記載したほうが良いと思われる。	☐ 意見として承った。
☐ 学生のボランティア実績について集約でき、状況を把握できるようになったとあるが実際にできているのか。	☐ 学生委員会においてデータ管理を行い、年度末に実績を公表している。

○保坂委員長より、他に質問、意見がなければ本日の検討はこれで終了し、本日の質疑結果を加え、字句修正も行って報告書をまとめるが、最終的な確認は委員長に一任してほしいとの発言があり、確認、了承された。

6．平成25年度学校関係者評価委員会からの課題への取り組み報告についての質疑は以下のとおり。

○橋本校長より、他の配付資料と内容も重複している部分も多いため、委員の方々からご質問・ご意見をいただく形で進行したいとの発言により質疑が行われた。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
☐ SST(ソーシャル・スキルズ・トレーニング)を	☐ アメリカで開発された研修システムであり、コ

テーマとする教職員研修会を実施したとあるが、具体的にはどのような内容なのか。	コミュニケーションの研修である。学生とより充実した対話を進めていくにはどのようにすべきか等の事例についてカウンセラーを招聘し研修を行った。
□教員研修の受講状況についてまとめた書類はできているのか。	□教務委員会で教員研修については全学科の教員の研修状況を取りまとめている。 □教員研修の受講報告については所定の報告書の書式がある。今までは各部署で管理していたが、教務委員会で記録管理をするようにした。
□介護福祉科の在宅実習の事業所は、訪問介護事業所のことなのか。また、何カ所の事業所で実習を行っているのか。	□訪問介護事業所のことである。6カ所の事業所で引き受けていただいている。
□学生支援として web メール導入、個人アドレスの付与とあるが、具体的にはどのような仕組みのことなのか。	□グーグルアプスを利用したもので利用料金は無料である。各個人にアドレスを付与し、連絡ツールとして活用していくが、現在はまだ準備中である。年度内に教職員及び在学生にアドレスを付与する予定であるが、対応時間や過度の利用を避ける等の使用ルールの整備が今後の課題となっている。

7. 平成26年度重点目標の中間点検報告についての質疑は以下のとおり

○橋本校長より、今年度は3項目の重点目標（①TPCの育成と強化、②退学防止、③教員研修）を掲げた。今年度に新たに掲げた目標は「TPCの育成と強化」である。「退学防止」と「教員研修」は昨年度から継承した目標である。

①「TPCの育成と強化」については、4月の全教師会においても周知しており、各学科の科会でも確認を行っている。また、学科運営計画の中でも具体的な記述がなされている。年度末には各学科で点検・評価を行うことになっており、次の段階としてシラバスに反映させていくことを考えている。

「TPC」の一つであるコミュニケーションについては、あえて「対話力」という言い方をしている。価値観が多様化している中、仕事の世界において価値観を擦り合わせることは重要であるため、対話力の強化をテーマとしている。私自身も校内の教育研究誌に「対話力を鍛える」というタイトルで投稿し具体的な提案をしている。

②「退学防止」については今年度の目標を3.5%以下とした。昨年度の目標数値は4.0%以下で結果としては3.4%の退学率であった。今年度は0.5%高い目標数値を設定しており、現段階での退学率は2.7%で、昨年度よりも早いペースで退学者が出ている。今年度の目標である退学率3.5%以下を達成するためには、退学者を25名に抑える必要があるが、既に20名の退学者がいる状況である。防げる退学については学生相談コーナー、保健室、事務局、学科、担任が一体となって退学の兆候が見られる学生に早く対応していき目標達成を目指したいと考えている。

③「教員研修」については、職業実践専門課程の中でも重要視されている。教員研修に関する情報をデータ管理し、把握するように努めている。専門研修は、各学科において意識的に行っている。今後も積極的に教員研修は推進していきたいと考えている。また、教育研究誌への投稿も推奨している。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□医療事務系学科の1年次前期と2年次後期のカリキュラムのあり方について検討するとあるが、具体的にはどのような課題があるのか。	□医療事務系学科の学生に対しては1年次の前期で時間割を組み替えて検定試験対策を行い早期に資格を取得させることで学生のモチベーションを高めていることには成功している。だが、2年次の10月以降になるとインターンシップに出る学生も多い。実質的には就職で、クラスの半数近くがインターンシップに出ている場合もある。そうした中、就職が決まっていない学生への対応が必要である。 また、就職が決まれば教育が終わったということではなく、社会人として就業する直前の指導も必要である。「医療メディエーション概論」という科目で対応しているが、それを更に充実したものにしていきたいと考えている。仕上げの教育というものに関して委員の方々からのご提案やご意見をいただきたい。
□学生には専門性はもちろんであるが、人間性が一番大事である。また、物の考え方が間違っていると専門性は活かない。物の考え方は学生時代でも就職してからでも大事にしなければならない土台の部分である。人間性に問題があると専門性を備えていても相手との関係が構築できない。人間性や物の考え方を伝える手段としての対話力と積極性は必要でありTPCとも合致すると思う。	□意見として承った。
□授業公開について事務職員の参観することも可とあるが実際の参観状況はどうであったのか。	□昨年度は3科目を広報、学務等の事務職員が参観した。

○最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次年度の報告書からは委員の方々による総評も記述することで進めたいとのまとめが行われた。

以上

会議議事摘録

会議名	平成 26 年度第 3 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 27 年 3 月 22 日（日曜日）14：00～16：30（2.5h）
場所	本校 3 階 302 教室
出席者 （敬称略）	①委員：佐藤文雄(高等学校関係者)、島本厚子(保護者)、野間 弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者)（計 6 名） ②学校：橋本正樹(校長)、藤野 裕(参与)、宮下明久(事務局長)、石川幹夫(医療秘書科学科長)、菊池聖一(医療マネジメント科・診療情報管理専攻科学科長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、飯岡理絵(介護福祉科学科長)、檀 貴与(鍼灸医療科学科長) 天野由美（教務委員長）、（計 9 名） ③事務局：出野孝行、高橋 稔(校長室)（計 2 名） （参加者合計 17 名）
欠席者	なし。
配付資料	①事前送付： □資料 1：平成 26 年度第 2 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 2：平成 26 年度学校関係者評価委員会報告書、□資料 3：平成 26 年度学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題への取組・改善の進め方 ②本日配付： □資料 4：平成 25 年度学校関係者評価委員会報告に示された課題への取組結果（最終点検報告）、□資料 5：平成 26 年度重点目標の達成の自己評価（年度末点検報告）、□資料 6：平成 26 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告（別添 A：第三者評価訪問調査の報告、別添 B：平成 26 年度退学状況の報告、別添 C：平成 26 年度後期授業アンケートの集計結果の概要、別添 D：平成 26 年度教員研修実施報告、別添 E：平成 26 年度授業公開実施結果、別添 F：看護科設置準備経過概要）、□資料 7：平成 26 年度卒業式資料 ③回覧資料：□職業実践専門課程の平成 26 年認定に関する文部科学省報道発表資料
議題等	1. 校長挨拶 橋本校長より、平成 26 年度卒業式が無事に終了したこと、私立専門学校等評価研究機構による第三者評価を平成 26 年度更新できること、看護科が 3 月 2 日付で指定、承認され、河北医療財団からの継承により 3 学年揃って 4 月に開設できること、また、実践的な職業教育に関する新たな教育機関の制度化に向けた議論が昨年 9 月から進められ、職業学位の付与など、大学と合せた専門学校の新たな方向性も見えてきたこと、それにより今後は益々、教育、学校の見える化、質の向上が求められることから、本委員会には引き続き積極的なご意見・ご協力を賜りたいとの挨拶が行われた。 2. 今回から出席する本校関係者の紹介（説明者：事務局 高橋） 事務局より、天野由美教務委員長が紹介された。

3. 前回委員会議事録の確認

保坂委員長より、前回議事録（資料１）について訂正等がなければ確認したい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。

4. 平成 26 年度学校関係者評価委員会報告の確認

保坂委員長より、前回委員会においてまとめた平成 26 年度学校関係者評価委員会報告書（資料２）を、平成 26 年 12 月 25 日付で校長に提出したことについて報告があり、確認、了承された。

5. 平成 25 年度学校関係者評価委員会報告に示された課題への取組結果について

各担当より、資料４に基づき、前回委員会での報告以降の進捗状況について説明が行われ、確認、了承された。

なお、委員より以下について質問と意見があり、説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①A0 入試入学生の退学状況について
- ②退学率算定の分母となる学生数について
- ③実習先の地域的な偏りについて
- ④インターンシップの内定前実施について
- ⑤卒業生への G メールの配付について
- ⑥ホームページのリンクについて
- ⑦資格取得の目標設定について

6. 平成 26 年度重点目標の年度末点検報告について

橋本校長より、資料５に基づき、今年度の３つの重点目標（①TPC の育成と強化、②退学防止、③教員研修）の年度末点検結果について報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

なお、委員より以下について質問があり、説明が行われた。

- ①福祉と医療との連携教育の進め方について
- ②TPC の育成と強化の組織としての進め方について

7. 平成 26 年度学校関係者評価委員会報告に示された課題への取組の進め方について

各担当より、資料３に基づき、前回委員会での報告以降の進捗状況について説明が行われ、確認、了承された。

なお、委員より以下について質問と意見があり、説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①退学防止の記録、高校の欠席把握と対策について
- ②日本学生支援機構の緊急採用申請実績、緊急時の奨学金創設について
- ③授業アンケート結果と授業公開について
- ④授業公開の客観的な検討について
- ⑤個人情報保護の観点からの SNS についての記述、説明と注意喚起について

	⑥教職員によるパソコンのデータコピーについて ⑦学生の学会発表の具体例について ⑧卒業後の就職支援について ⑨生涯学習における速記の積極実施について ⑩AED の研修について 8. その他、経過報告（説明者：事務局 高橋） 平成 26 年度第 2 回委員会以降の主な経過について、資料 6、資料 7 及び回覧資料に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。 9. 平成 27 年 3 月で任期終了となる委員の再任について（説明者：事務局 高橋） お子様の卒業（昨年 3 月）により再任を辞退された島本委員（保護者委員）を除き、平成 25 年度委嘱の 4 委員の再任をお願いしたい旨説明が行われ、依頼文書をお渡しして手続きをお願いした。 10. 次回日程、その他（説明者：事務局 高橋） 次回は平成 27 年度初回の委員会となり、6 月に開催する予定であること（3 回予定）、連休前に日程調整の文書をお送りさせていただくこと、次回のテーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。 ・平成 26 年度活動の自己点検・自己評価結果（改善報告を含む）報告 ・平成 27 年度の重点項目説明 ・平成 26 年度委員会報告に示された課題への取り組み進捗報告 ○最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞及びまとめが述べられた後、次年度への協力依頼が行われ、閉会した。
--	--

以上

別紙

平成 26 年度第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

○保坂委員長より、議題毎に報告、説明を受け、質疑応答、確認を行う進行としたい旨の発言があり、各担当より順番に配付資料の補足説明をした上で、委員の方々からご質問・ご意見をいただく形で進行した。

5. 平成 25 年度学校関係者評価委員会に示されたに課題への取組結果についての質疑は以下のとおり。

○事務局高橋より資料 4 の構成について説明が行われた後、各担当から順番に資料 4 に記述した平成 26 年度の最終点検結果の補足説明が行われた。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□退学防止対策について、目標達成はできなかったにしても対策をとって頑張っていると思う。以前の説明で A0 入試の退学者が比較的多いと伺ったが今年度はどうだったのか。 学科を超えた面倒見の良さは良く理解しているが、学科によって学生数と教員数のバランスが異なることは遠因にならないか、学生数の少ない学科はどうか。	□A0 入試による入学者の退学は 13%と減少している。平成 23 年度までとは少し傾向が変わった。例えばオープンキャンパスへの複数回参加を促したことの効果もあったと考えている。 医療事務系学科では検定目標の設定や機会をとらえた面談により、モチベーションを喚起して、防げる退学を防ぐ努力をしている。 鍼灸医療科では、働きながら学べる体制を整えて教育を進めている。
□資格取得の目標設定は、専門学校教育の大きなテーマと思うので、本校の強みとして謳えるように、しっかりと検討してほしい。	□意見としてお伺いした。
□実習先の新規開拓に努力しており、学生の実習先が広がって結構なことと思うが、地域的な偏りはどうか。	□病院事務実習は本人希望を前提に進めているので特に問題はない。 □診療情報管理専攻科の実習先は、実習指導の関係からどうしても限られてしまう現状はあるが、期間が 2 週間ということもあり、学生には実習内容と受入れ先の実情を説明して理解を得ている。
□就職内定前のインターンシップの実施はあるのか。また、内定先を含めボランティアとしての実績はあるのか。 TPC の浸透という観点からは、人材育成においてボランティアは意味がある。	□内定前のインターンシップはない。内定先でのインターンシップは医療事務系採用の慣例、特徴的なもので、学校として必ずしも積極的に推進しているわけではないが、現場の仕事を入職前にしっかり経験する機会と位置づけている。 アルバイトとは異なる仕事の体験として、ボランティアには意味があると思っているが、学業も忙しいせいか、なかなか広がらない。しかし、教育の仕掛けの一つとして有効と考えている。

	1年生の時に大学病院でボランティアをして、翌年にその病院に就職が内定したというケースはある。
☐ 卒業生への G メール の配付はどのようにしたのか。	☐ 今年度の一人一人に操作マニュアルと共にプリントでアドレスを手渡し、配付した。各自で変更、登録をしてもらうようにしている。担任からのフォローもしている。
☐ リンクすればホームページ上で大臣会見などの速記場面をユーチューブ (YouTube) で見ることができるので、学生募集の観点からも是非活用してほしい。	☐ 意見として伺いました。

6. 平成 26 年度重点目標の年度末点検報告についての質疑は以下のとおり

○橋本校長より、資料 5 に基づき、今年度の 3 つの重点目標である①TPC の育成と強化、②退学防止、③教員研修のそれぞれについて年度末点検の結果報告が行われ、3 点とも来年度に継続する予定である旨が説明された。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
☐ 以前より、また今後に向けても福祉と医療との連携が言われて久しいが、本校では看護科新設を契機に教育をどのように進めて行くのか。	☐ 連携に向けてコミュニケーションが図れるよう、学科間の接点を増やすことを意図的に進めたい。それを本校の教育の強みにしたいと考えている。
☐ TPC の育成と強化については、教員個々に浸透させることが重要であり、進化させるためにも目標を持たせることが必要だが、組織としてどのように進めているのか。	☐ 目標面接制度があり、常勤の教職員は年度初めに運営方針に基づく目標設定をして、11 月に中間面接、年度終了後に最終面接により達成度の確認を行っている。

7. 平成 26 年度学校関係者評価委員会報告に示された課題への取組の進め方についての質疑は以下のとおり。

○事務局高橋より資料 3 の作成経過、構成について説明が行われた後、各担当及び事務局高橋から順番に、資料 3 に記述した平成 26 年度の課題への取組の進め方について補足説明が行われた。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
☐ 退学防止のための記録の見直しとはどういうことか。 記録はできるだけ、後で分析等がしやすいようにするとよい。 また、高校時代の欠席が多い学生は退学する率が高いと言われているが、事前把握、対策はとっているか。	☐ 担任が記録する退学者の「学籍異動の記録」の記述項目について、内容を書きやすく、分かりやすく、整理・分析しやすいよう見直しを行うことにしている。 ☐ 高校時代の欠席状況については担任による年度初めの面談時の確認項目としている。

□日本学生支援機構の緊急採用を申請した実績はあるか。 緊急時の奨学金創設も学校として検討するとよい。	□年に数件程度の申請はある。 □意見としてお伺いした。
□授業アンケート結果について、教員ごとの把握はしているのか。また、授業展開の参考にするために他の教員の授業に関する情報を参照することはできるのか。	□授業アンケートの結果は教員に個別にフィードバックしており、学科長にも知らせている。授業公開は、教員同士の学び合いを目的に拡大することになっている。 □授業公開の参観レポートと公開レポートは年度報告書にまとめ、学内ネットにも掲示するので、他の教員の授業に関する情報は得ることができる。
□授業公開の教員同士の評価は、どうしても甘くなる。改善点の指摘も必要であり、授業内容等についての客観的な検討も必要ではないか。	□その方向であり、現在は客観的な検討に向けたプロセスと考えている。授業アンケートについても、今年度からは教員に自分で直接回答用紙を見ていただくように変更した。
□個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点から、特に SNS について、学生配付資料にしっかりと記述、説明して、注意喚起してほしい。	□意見としてお伺いした。
□教職員がパソコンのデータコピーはできるのか。	□コピーはできるが、持ち出しをしてはいけないルールを設けている。今のところ、事故等はない。
□学生の学会発表の具体例は何か。	□医療マネジメント科は医療秘書学会、診療情報管理専攻科は診療情報管理学会での学会発表を毎年行っている。
□卒業後の就職支援はどのように行っているのか。	□相談があれば求職登録してもらい、対象の求人が来れば連絡、紹介している。今後はホームページも利用することを検討している。
□生涯学習で、速記教育をもっと積極的に進めてほしい、世界遺産の可能性もあると言われている。	□意見としてお伺いした。 □学校というより速記協会のテーマかもしれない。
□AED の使用法について、研修は行っているのか。	□教職員は導入時に実施している。 □学科によっては救命救急講習を行っている。 □また、くすり調剤事務科では授業で行っている。

○学校側の出席者より、以前保護者会を実施していたが参加者が年々減り、3年くらいで立ち消えになってしまい、続けるための秘訣、方法についての質問が行われた。

○これに対し委員より、保護者も忙しく、なかなか来てもらえない。やはりテーマが重要だと思う。例えば全体会だけでは来ていただけない、保護者との個別の面談を工夫するなど参加率は高まるので

はないかとの助言があった。

8. 経過報告についての質疑は以下の通り。

○事務局高橋より、資料6（別添A～F）、資料7及び回覧資料に基づき平成26年度第2回委員会以降の以下の経過について報告が行われた。

(1) 職業実践専門課程

- ・2/25 文部科学省告示第23号で平成26年度職業実践専門課程の認定告示（回覧資料）
- ・全国296校、677学科、平成25年度と合せて全国673校、2042学科
- ・3/10 ホームページに掲載している申請様式別紙4の様式変更に伴う更新

(2) 第三者評価

- ・1/27 訪問調査、評価機構より8名来校（別添A）
- ・3月末評価修了予定、有効期間：実施年度を含む5年間（平成30年度まで）

(3) 学生の状況

- ①退学の状況：3/16時点の退学者は29名、退学率は3.9%（25年度は3.4%）（別添B）
- ②就職内定の状況：2月末時点の内定者数は271名、内定率は83.9%（25年度は70.9%）（資料7）

(4) 平成26年度後期アンケートの実施

	後期授業アンケート	学校生活に関する調査
①実施期間	平成27年1/27(火)～2/2(月)	平成27年1/27(火)～2/9(月)
②実施計画	・平成26年度後期授業アンケート実施計画 ・実施手順は前期に同じ ・質問項目は平成26年度改訂版	・平成26年度学校生活に関する調査実施計画 ・実施手順は昨年度に同じ ・質問項目は平成26年度改訂版、裏面に学生委員会「挨拶」アンケート
	・読取向上のためのアンケート用紙のチェック方法変更	
③実施科目	・303科目、6425回答	・インターン専攻生は登校日に実施
④読取集計	・単純集計（平均値の単純集計・グラフ）と各担当・授業科目毎に、質問毎の回答数他をカウント、グラフ化、集計結果の概要（別添C）	

(5) 教員研修（別添D）

- ①専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するために実施する研修
- ②授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するために実施する研修

(6) 授業公開

- ・12/18～19、1/14～27、2/2 各学科の授業公開終了（別添E）

(7) 平成26年度活動の自己点検・自己評価

予定	実施内容
2/20～3/18	☐ 学校関係者評価委員会からの平25年度の課題について点検（各担当） ☐ 平26年度重点目標の点検・評価（校長） ☐ 部署毎に該当する点検項目について平26年度活動の点検・評価（各担当） ☐ 平成26年度活動の自己点検・自己評価実施要領により3/31時点の見込みで記述 ☐ 使用基準：私立専門学校等評価研究機構「専門学校等評価基準 ver4.0」
3/24	☐ 3月点検委員会で全体まとめ資料確認、自己評価報告書の作成開始、参考資料確認

(8) 看護科設置

- ・ 3 / 2 関東信越厚生局長より看護師養成所指定通知受ける（別添F）

(9) 卒業式

- ・ 3 / 17 平成 26 年度卒業式・修了式（資料 7）
- ・ 卒業生 358 名（女性 317 名、男性 41 名）、修了生 27（女性 24 名、男性 3 名）

○最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞及びまとめが述べられた後、次年度への協力依頼が行われた。

以上